

第30回 オバマ大統領、孟子を説き クリントン長官、泰山を移す

この週末、山歩きで汗だくとなり、一休みに飛び込んだ近所の古本屋でリチャード・ニクソン著 指導者とは (文藝春秋社) を偶然見つけ狂喜乱舞した。いま書いている論文の関係で、この本を探し回っていたのだが、たしか二冊持っていたはずの日本語版を、家人が家が狭すぎるとかで、まとめてダンボール箱に詰め、どこか押入れの奥深くに仕舞い込んだらしい。仕方ないので原書と上海で買った中国語版 (尼克松文集・願導者) を使っていたのだが、この歳になると原書だと英語の細かさに目が耐えられず、また中国語版だと登場人物が全て漢字で表記されており、読みづらいことこの上なく難渋していたところであった。

ニクソン元大統領は、戦後まもなく下院議員、上院議員を経て 1952 年にアイゼンハワー大統領の副大統領に就任、一時ケネディと対決した大統領選と、その後のカリフォルニア州知事選に敗れて雌伏の時代を過ごしたが、74 年に大統領を辞任するまで約 20 年間、ほぼ一貫して国際政治の表舞台に立ってきた人物である。彼は本著のなかで、各国のリーダーたちを面白いエピソードを散りばめながら生き生きと描写し、指導者に必要な特性とは何かを追求している。

ニクソンの外交人生のなかで、彼に最も強い印象を与えた人物は、シャルル・ドゴール (仏)、次いでウィンストン・チャーチル (英) と周恩来 (中) のようだ。ニクソンによれば、滅多に人を褒めることのないキッシンジャー補佐官 (当時) までが、周恩来のことを「ドゴールに匹敵する最も印象に残った外国政治家」と評したという。米中国交回復交渉において周恩来は相当厳しいネゴシエーターであったようで、ニクソンとキッシンジャーは周恩来を、あるときは機を見て一気に襲いかかるコブラに、またあるときは静と動を併せ持つ 氷冠を頂いた活火山」に例えている。残念ながらニクソンが周恩来と知り合ったのは周が亡くなる四年前のことであり二人の交流は長くは続かなかった。

一方ニクソンと、ドゴール、チャーチルとは 20 年に及ぶ長いつきあいとなり、彼らに関しては私的な交際も含め数々の興味ある逸話が紹介されている。カリスマ政治家の典型であるシャルル・ドゴールは中佐時代に陸軍大学校での講義をまとめた「剣の刃」という指導者の手引書を書いており、そのなかで指導者が持たねばならない資質を、正しい進路を選ぶ知能と本能、および国民にその道を進めと命じる権威だと規定している。世の中に高い知性を有する学者型の指導者は少なくないが、ドゴールによると、物事の本源を衝く本能を有するか否かが指導者の資質を決めるという。

本著には、ほかにフルシチョフ、吉田茂、アデナウアー、リー・クアンユー、ゴルダ・メイヤ等、大国だけでなく新興国も含めさまざまな指導者が登場するが、悪役のフルシチョフも含め、みな大義に生きる魅力的な政治家として描かれている。残念ながらこれほどの魅力とカリスマ性を有する政治家は今の国際社

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

会では皆無だろう。

100年に一度という世界的な経済混乱のなかで、世界各国は政治より経済を優先させて、国力の回復に努めており、これはこれで正しい選択であろう。但し、米国は別だ。いまの米国は国際政治において、世界で唯一の超大国としての政策と戦略を著しく欠いており、中国やロシア、イラン、あるいは今後誕生する可能性のある日本の民主党等とどう対峙してよいか分からず、外交が混乱の極みにあるようだ。オバマ大統領が外交の素人であることは、今さら指摘するまでもないことだが、問題は有能な側近がないことである。米国の政治システムは大統領に強大な権限を賦与する一方で、大統領を支える補佐官・顧問等のスタッフが数多く存在することで、これまで柔軟でバランスのとれた国際戦略を生み出してきた。かつての大統領たちを支えたキッシンジャー、ヘイグ、ブレジンスキー、スコウクロフトたちは、出身こそ学者、軍人等多岐にわたっているが、みな大局観のある有能なスタッフであった。

いまの国際情勢はどうもキナ臭い。オバマ大統領就任後に立て続けに動き出したロシアの核兵器強化、北朝鮮による六カ国協議の永久終結宣言のみならず、ドイツとロシア、サウジとイスラエルの接近といった不可解な事態まで生じている。要は、オバマ大統領の弱腰外交、もとい、宥和政策が各国の思いもよらぬリアクションを生み出しているである。ニクソンも書いているとおり、戦争を未然に防ぐためには、力の行使を考えた外交は必要であり、核廃絶を展望するために大統領スタッフに核戦力の専門家は必要なのである。

アメリカと中国の関係緊密化は大いに大いに結構なことであり、米中戦略経済対話も徐々に軌道に乗りつつあるが、王岐山副総理のポーカークフェイスながら毅然とした態度と、オバマ大統領が孟子を、クリントン長官が泰山の故事を引用して、中国との協調を訴える姿は正に対照的であった。(了)

平成 21 年 8 月 4 日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3